

用 船 仕 様 書

1. 調 査 名 日本海中央部ハタハタ表中層分布調査

2. 調査目的・概要

我が国周辺水域における水産資源の回復と持続的利用を図るために必要な科学的基礎となる主要魚種の資源評価の的確な実施に資する資源評価調査の一環として、隠岐東方から男鹿半島西方（大和堆経由）に至る海域において、ハタハタの表中層分布量を把握し、沖合回遊経路を解明することを目的とする。

3. 調 査 内 容

①STD および水中カメラによる観測（調査点 27 点）

- ・ STD による水温・塩分観測と水中カメラによる魚群観察を、原則、表層～水深 350 mで行う。機器取付及びウィンチ操作は乗組員が行い、STD と水中カメラにより取得したデータ整理は調査員が行う。
- ・ 本調査で使用する STD（メモリー式 アレック電子社製 AST-1000）、水中カメラ（Gopro 製 HERO4 耐圧 300m 3.5kg 1台、JT Electric 製 トロールカメラ 白黒画像カメラ+LEDライトユニット 12kg 1台）は、当機構が用意する。

②中層トロール曳網によるハタハタ等の採集（曳網 約 27 回）

- ・ 調査点数は 27 点前後、水温 5～10℃の水深帯（約 100～300m）において、網水深を安定させうる船速（3 ノット）で、30 分間、中層トロール網を曳網し、魚類・イカ類等を採集する。
- ・ 中層トロール網のトロールウィンチ取付及び曳網等に係る操作は乗組員が行う。
- ・ 本調査で使用する中層トロール網（曳網時網口高さ約 6～7m×網口幅約 15～17m×長さ約 54m）は当機構が用意する。

4. 調査必要装備（本調査を実施可能な機能を有し、用船期間中に使用可能な状態（精密機器の校正等含む）で本船に整備されていること。）

①観測用ウィンチ 1台

- ・ 上記 3. ①調査用

②トロールウィンチ 1台

- ・ 上記 3. ②調査用

③オッターボード 一式

- ・ 上記 3. ②調査用

④魚網監視装置 1台

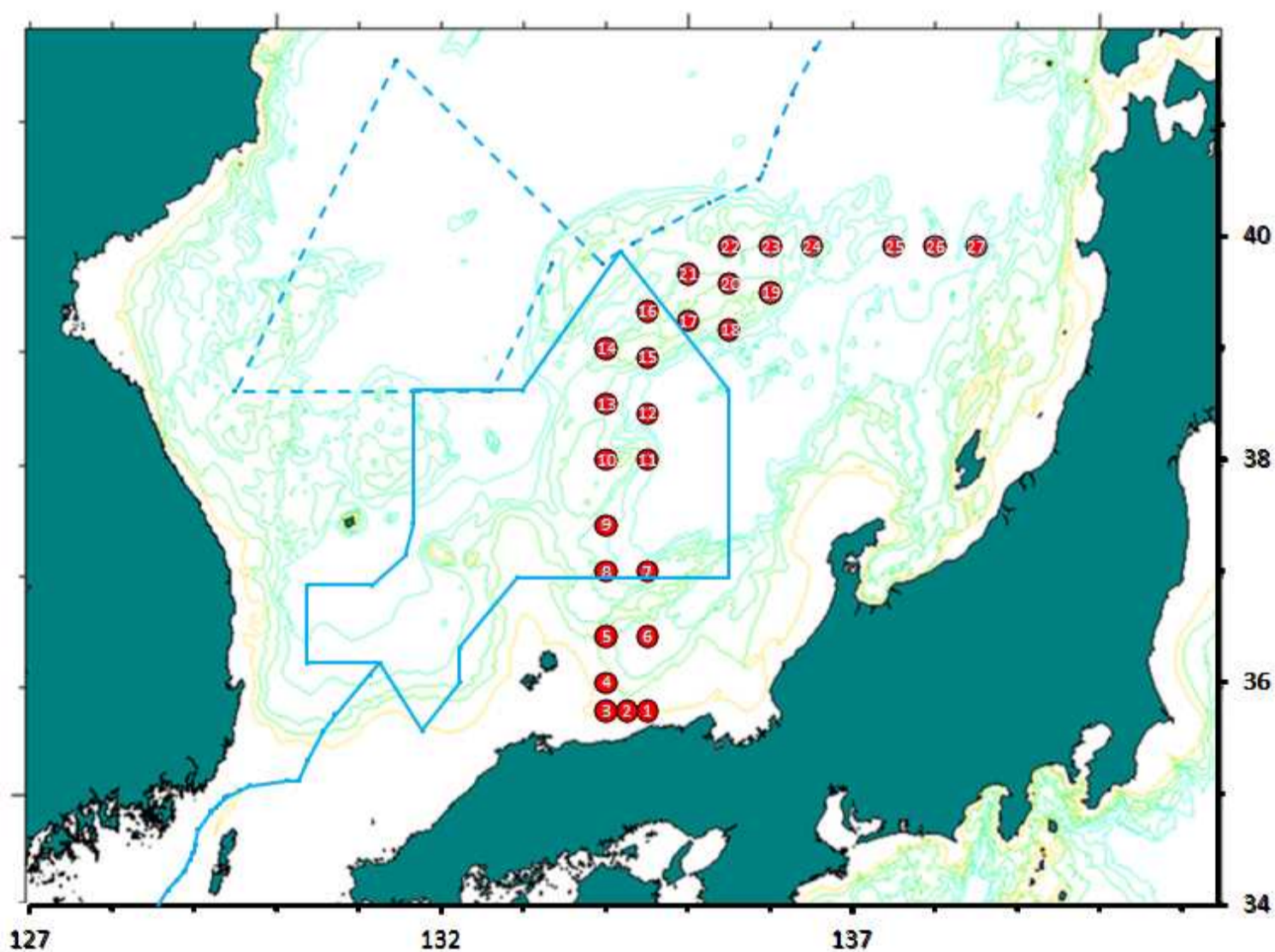
- ・ 上記 3. ②調査用

⑤冷凍設備 約 16m³

- ・ 調査サンプルを保存するため、冷凍温度－25℃以下の温度設定可能及び上記体積を

確保した冷凍設備を有すること。なお、冷却システム等は問わないものとする。

5. 総 ト ン 数 300トン～500トン
6. 乗船調査員数（同時期に乗船する最大調査員数） 3名
7. 用 船 期 間 平成30年9月10日～平成30年9月21日
8. 運 航 予 定
- | | |
|-----------|---------------------|
| 30. 9. 10 | 用船開始、調査機材等搬入（用船開始港） |
| 30. 9. 10 | 用船開始港出港 |
| 30. 9. 20 | 新潟港入港 |
| 30. 9. 21 | 調査機材等搬出、用船解除 |
9. 調 査 海 域 日本海中央部海域
10. 調 査 海 域 図



※ 赤丸は調査点であり、数字は調査する順番（予定）である。青線は暫定水域を示すラインである（実線は日韓ライン、破線は日ロライン）。天候等の次第で、請負業者と協議の上、北緯 35 度 20 分以上、北緯 40 度 10 分以南、東経 133 度以東、東経 140 度以西の我が国排他的経済水域内で、適宜、変更する。

11. 担 当 研 究 所 日本海区水産研究所

12. そ の 他

- ①詳細については担当職員の指示に従うこと。
- ②運航にあたっては、第三者所有漁具等への事故が発生しないよう細心の注意を払うものとする。なお、運航に関する事項については、本仕様書に定めるもののほか別添「漁業調査船に関する用船仕様書」によるものとする。
- ③用船契約期間中に消費した燃油は当機構が別途供給するものとする。
- ④用船開始港については原則として調査海域周辺の港とするが、調査に支障の無い範囲内で請負業者と協議の上、決定するものとする。